目はの文化を請る

第3回

本建築と文化

神社建築を中心に



著書、『祭式大成 昭和四年三月六日生まれ。 國學院大學教授。専攻、祭祀学。 小野和輝 大學大学院文学研究科修了。現在、 (おの 男女神職作法篇』。 かずてる) 國學院

川添 著書、『建築と伝統』、『民と神の 住まい』、『「木の文明」の成立 建築評論家、郡山女子大学教授。 早稲田大学哲学科、建築学科卒業。 大正十五年二月二十三日生まれ。

受 (かわぞえ のぼ 3

昭和四年四月二十四日生まれ。

東

大河直躬 (おおかわ

なおみ)

建築史。著書『番匠』、『東照宮』。 大学工学部建築学科教授。專攻、 京大学工学部建築学科卒業。千葉

司会 まだお寒い時期で、しかも夜遅い時間にお忙しい中

本道文化会と申しますのは、戦後の占領時期に、日本文化神道文化会と申しますのは、戦後の占領時期に、日本文化神道文化会申しますのは、戦後の占領時期に、日本文化神道文化会申しますのは、戦後の占領時期に、日本文化本す。。

ての神社建築といった問題が含まれてお話しいただければ、その神社建築といった問題が会すると必ずしもスーッとは乗ってこれないが、一般の方からすると必ずしもスーッとは乗ってこれないが、一般の方からすると必ずしもスーッとは乗ってこれないが、一般の方からすると必ずしもスーッとは乗ってこれないが、一般の方からすると必ずしもスーッとは乗ってこれないが、一般の方からすると必ずしもスーッとは乗ってこれないが、一般の方からすると必ずしもスーッとは乗ってこれないが、一般の方からすると必ずしもスーッとは乗ってこれないが、一般の方からすると必ずしもスーッとは乗ってこれないが、一般の方からすると必ずしまって使います。

お話いただければありがたいと存じます。社建築にも関心をお持ちでいらっしゃいますので、ご自由に取上げていただきたいとは考えておりませんし、先生方は神幸いでございます。私どもこれこれのことを是非話題として

何分ともによろしくお願い申し上げます。上げることもまことに幼稚なものがあるかも存じませんが、のお祭りをするそちらのほうでございますので、ご質問申しいまして、専門はお建てくださったそういう建物の中で神様にだ司会を仰せつかりました私、神社建築には素人でござ

りますが、先生からお願い申し上げます。『建築と伝統』などすでに沢山の書物を出版しておいでになり、ご研究をなさいましたき。川添先生は『民と神の住まい』やいただけたらと存じます。川添先生は『民と神の住まい』や はいただけたらと存じますが、自己紹介を兼ねて、先生方が そこで大変恐れ入りますが、自己紹介を兼ねて、先生方が

神社建築との出逢い

おります。これは柳田国男先生のお弟子さんで民家研究の先て、最近は「日本生活学会」という学会をつくって、やってナリズムの出身で、もともと現代建築の評論家でございましという建築雑誌の編集をやっていた頃なんです。私は建築ジャーという建築雑誌の編集をやっていた頃なんです。私は建築ジャー

した。そこで「生活学原論」の講義をする人がいないからやったれ以後先生で自身もそれを進められなかったものですから、それ以後先生で自身もそれを進められなかったもので、現代人つくろうじゃないかということで 設立したもので、現代人の生活研究が専門です。現在は郡山女子大学の教授をしております。この大学は家政学中心だったんですが、もう家政学ります。この大学は家政学中心だったんですが、もう家政学ります。この大学は家政学中心だったんですが、もう家政学は古いというので、人間生活学科というのを初めてつくりませい。そこで「生活学原論」の講義をする人がいないからやっした。そこで「生活学原論」の講義をする人がいないからやっした。そこで「生活学原論」の講義をする人がいないからやっした。そこで「生活学原論」の講義をする人がいないからやっした。そこで「生活学原論」の講義をする人がいないからやった。

な永遠建築も、それから城の天守閣みたいな防衛を第一とす造でしか建造物を造らなかったですね。例えば法隆寺みたいという本に書いておいたのですが、明治になるまで日本は木これは最近だした『「木の文明」の成立』(NHKブックス)どうして神社建築について関心を持ったかと申しますと、どうして神社建築について関心を持ったかと申しますと、

て欲しいというので、その講義をしております。

はいから石造技術がなかったわれている。 本代を見てみると、壮大な巨大古墳を造り、その中に、巨大古墳を造り、その中に、巨大な巨のがのがです。ところが

たのか。けじゃないんです。それがなぜ木でしか建築を行ってこなかっ

ことで非常に関連があるんじゃないだろうかと思うわけです。例えば、ヨーロッパの場合の建築、アーキテクチャーという例えば、ヨーロッパの場合の建築、アーキテクチャーというで発達してきていますから、現在でも建築と土木、建築と都て発達してきていますから、現在でも建築と土木、建築と都て発達してきていますから、現在でも建築と土木、建築と都でとの間には間隙があり、ヨーロッパみたいに一体化していたの間には間隙があり、ヨーロッパみたいに一体化していたの間には間隙があり、ヨーロッパみたいに一体化しているの間には間隙があり、ヨーロッパみたいに一体化しているの間には間隙があり、ヨーロッパみたいに一体化しているの間には間隙があり、ヨーロッパみたいその生活にも見出せるないんです。そういう特徴が現代日本人の生活にも見出せるないんです。そういう特徴が現代日本人の生活にも見出せるは永遠性があると考えられているのに、日本では都市を絶えばか遠性があると考えられているのに、日本では都市を絶えず造り替えております。

例えば古代に、仁徳陵とか応神陵とかの巨大古墳がありまして死の造型です。

に関心をもってきたんです。 ければいけないのではないかということで、伊勢神宮の問題 れども、要するに日本文明というものを根本的に考えてみな は大河さんみたいに建築史の専門家でも何でもないんですけ 解けないと現代日本の文明も解けないんじゃなかろうか。私 大きな影響を持っている。これは一体全体何だろう。これが てのことだけでなく、後々までも日本人の精神構造に非常に そういうふうに、価値観がここでまったく反対の方向に変わっ 造型ですし、しかも死というものを忌み嫌う生の造型です。 れている。その上、二十年ごとに造り替えるテンポラリーな の強いものになってきますし、また大地から高床で切り離さ なる伊勢神宮になりますと、森の中に囲まれた非常に自然性 ている。こういうようなことが単に天皇制のイメージについ

上げます。

もお詳しいと伺っています。一つご紹介を兼ねてお願い

雲のことはそれなりにやりましたけれど、それ以外の神社建 が「神社建築」というので困ったなと思ったのは、伊勢と出 雲大社が問題になってくるのです。しかし今日の主なテーマ ます。しかし、それを考えるにも原点にもどってみる必要が 大変困ったなあと思っておるんですが、自己紹介を兼ねて申 築は、興味は持ってますけれどほとんど知らない。ですから し上げると、本職はまったく別の現代建築・現代生活にあり 伊勢神宮をやれば、当然それと対照的ということから、 出

> たずさわられたそうですし、出雲大社その他のお社について いてお願い申し上げます。大河先生は日光のご修復に長い 化の底には神道があるんじゃないか、神社があるんじゃない 建築の一番古い原形を残しているものだということ。 かというお話がありましたが、全くその通りだと思い あるのではないだろうか。要するに神社建築というのは日本 司会 ありがとうございました。後程また建築のことに ます。 日本文 間

ところがその古墳に代わって、天皇ないし天皇制の象徴と

工さんの研究をいたしまして、それで春日とかそういう古い なお金がありませんでしたから、大学にいる時には中世の大 ただきました。それからもう一つ、当時は調査するのに十分 いう関係で柳田先生の本とか折口先生の本を随分読ましてい る時には主な研究のテーマは「民家」でございまして、そう 大河 私は昭和三十三年に大学院を出まして、大学院にい

ど東照宮の工事が御本殿をやっていました盛りでございまし 工事もやりました。それから後、東大の助手になってから六 んから、じゃあ日光へ行ってみないかということで、 それで大学を出ましたところ、当時はまだ教職がありませ それで専任では二年、東照宮と二荒山、それと輪王寺の

ういうものを読ましていただきました。

神社の古文書を随分読んだり、御造営の記録ですけれど、そ

て、



いうご依頼がありまして、そ 司さんがらぜひ書いてくれと 事報告書」のことで、 したけれども、陽明門の た。そして教職専門にな 全部で八年間参りまし 額賀宮 らりま

そういう関係から神社の建築は東照宮さんだけではなく、 岡とかその他のところでも修理工事に関係いたしました。 切りを着けさせていただいた。 れを完成して仕事に一応の区 静

長野県なんかに行くと、 普通の建築史というと、古代がどうだ、平安時代がどうだ、 ずっと見て歩きました。それで一つびっくりしましたのは、 二十年代ぐらいまでのものを総ざらいに洗い出してみるとい 鎌倉時代がこうだということを申しますが、それが例えば、 ました。そのお蔭で一つの県につき一○○以上の神社建築を をやっておりますけれども、その他干葉県とか幾つか関係し う仕事でございまして、

私はその中で長野県、

今年も二回目 のを行っていまして、これは神社と寺院の建築、大体明治の 各県が文化庁の補助事業で「近世社寺建築緊急調査」という それ以後、もう一つ神社に関係があったのは、今日本では . 全部が重なっているわけです。

> いろいろの形があります。諏訪大社のように茅葺の建物を今 とにあちらからこちらへお移りになる。だから式年造替でも から塩尻の小野神社へ行きますと、これは二棟あって六年ご 年ごとの御柱のお祭りの時に片一方だけ建て替えます。それ が二つございます。本殿ともちょっと違うんです。これを六 から、例えば諏訪大社の系統のお社ですと、御宝殿というの 神社がちゃんとした神社で、これは全く古い形ですね。 ますと、森があって社叢があって、 中には建築がないような

でもそのままの姿で建て替えているわけです。

野県の山村へ行くと大体中世の終りから江戸時代の初めに 格的な建築にするという風に考えられています。ところが の研究をやっております。 非常に面白かったと思います。 へ行くと違った時代のものが重なってあるわけです。 けてそのような変化がある。つまり日本の神社の歴史は地 「組物」とか、「蟇股」とか、そういうものを持ってきて本 今までの非常に素朴な造りから、寺院建築に使われてい 普通の建築史ですと、大体神社建築というのは鎌倉時代に 現在はむしろそういう方面

能主義的にどういうふうに生活の便利のために使われたかと の建築学の主流的な研究ですと、 それから先程申しました民家の研究でございますが、 その主流でございまして、その場合どちらかというと機 間取りとか、 構造というの

が、

千葉県でもそうですけれども、安房のほうへ行き

界ではかなり信じられていた、日本の民家では「田の字型」 学会でご講演された内容です。その中で、当時もまだ建築学 本を平凡社から出しまして、その中でようやく建築学的な立 たんですけれども、 問としての建築学のほうからはなかなか実証的に解けなかっ 中心に考えなければいけないと言われた。こういう点は、学 に先祖もここへ参加する、そういう部屋だ。そういうものを べておられる。そして民家では表に面した真ん中の部 とそういう考えを初めから棄ててかからないといけないと述 田先生が確か昭和二十二年だったと思いますけれども、 そのことで一番手引きになりましたのは、先程申し上げた柳 てくると考えています。ところが私は、それでは日本の民家 取りというのは最初は単純で一間だったのが二間に別れてき と神棚の両方祭っておりますけれども、これが意外に研究さ てまいりましたけれども、住まいの中にいまでもかなり仏壇 の間取りが基本的形式だという考えを、柳田先生ははっきり の発達は解けないだろうと前から感じていたんですけれども、 番重要視されている。これは神を祭る、人が集まると同時 それともう一つ、日本ではやはり、先程住まいのお話が出 裏付けをすることが出来ました。 更に四間になるというように、生活の要求に従って別れ 私は三年程前に『住いの人類学』という 一屋が、 建築

でさいます。大体そういうところです。 といいないんです。それで一体いつ頃から神棚を祭ったのか、れていないんです。それで一体いつ頃から神棚を祭ったのか、そういう問題があると思いますけれども、民俗学の方はかなり古くからというふうに考えていらっしゃない。神棚はもっと遅うございまして、関西で現在年代のわます。神棚はもっと遅うございまして、関西で現在年代のわます。神棚はもっと遅うございまして、関西で現在年代のわます。神棚はもっと遅うございまして、関西で現在年代のわます。神棚はもっと遅うございまして、関西で現在年代のわます。神棚はもっと遅うございました。 (人壇を祭ったのか、 (人壇を祭ったのか、 (人質を祭ったのか、 (人質を祭ったのか、 (人質を祭ったのか、 (人質を祭ったのか、 (人質を祭ったのか、 (人質を祭ったのか、 (人質を祭ったのか、 (人質を終ったのか、 (人質を終ったのが、 (人質を終ったのが、 (人質を終ったのが、 (人質を終ったのが、 (人質を終ったのが、 (人質を終ったのが、 (人質を終ったのが、 (人質を終ったのが、 (人質を終ったのが、 (人質を終うが、 (人質を必ずを) (人質を終うが、 (人質を表がで) (人質を発うを終うが、 (人質を表がで) (人質を表

いう、そういう観点からの研究が主で、歴史的

な研究も、

神と民の住まい

説を述べておいでになります。そうした点について、もう少移動して、風の吹き通る空間が日本建築には必要だというお方も同じで、住民が生活したり動いたりする尺度には、日本方も同じで、住民が生活したり動いたりする尺度には、日本の住まいの間取りについてお話しが出ましたが、川添先生もの住まいの間取りについてお話しが出ましたが、川添先生ものにまいの間取りについてお話しが出ましたが、川添先生ものによいの間取りについてお話しが出ましたが、川添先生ものによいではいました。終りのところで一般の人



思いますが。 易くお話をお願いできたらと し具体的な例を加えてわかり

院造りとか、上層階級の住 題で、それも寝殿造とか、 いで造られていったものが、 川添 それは住宅建築の問 ま

ね

非常に閉鎖的なものだと思うのです。ですから上層階級の住 間だけですから、それで襖とか障子なんかもほとんど板戸で、 と思うのです。とくに東半分は明治まで民家のほとんどは土 河さんに言っていただいたほうがよろしいと思うのですが、 れから農家なんかの場合も、これは大河さんのご専門で、大 とは言えないけれども、神様がいらっしゃるところですから、 あくまでも礼拝の対象物であって、内部空間はどうでもいい び付けて考えた場合、 取り入れられたことはあるでしょうけれども、神社建築と結 かなり近代に近くなるまで割合閉鎖的な住まいで住んでいた 直接に人間の生活する空間と比較することはできません。そ 今お話の出たように中断ちで進んできますけれども、 例えば伊勢神宮の場合など、それは 後に例えば京間の町屋とかに

> だと言われます。 にも二種類あるんじゃないかと、私は思いますけどね。 のです。従って住まいという観点で考えると、神社建築の るのではないか。そしてもう一つは、もっと祠的なものです にあるわけです。だから神社にも、 すけれども、いわゆる大王の住まい的な傾向のものは、確か いらっしゃる。これはだから、人間の住まいとは全く違うも でも言いますし、 「神の住まい」というようなイメージの中でできたものがあ 大河 まさにそこには神様の御霊代とかそういうものが入って 確かに住まいということでは、 川添さんのご本の中にも書いてあるわけで そして神社の中にも、 一つには「人間の住まい」 これは最近の建築史 神社も「神の住まい_

様式がどうして出てくるのかと思われる程、 殿造の様式だとかいいますし。吉備津神社のようにああいう それからお社は出雲大社のように大きいのがあるかと思うと、 の場合には神社一棟に神様一柱ずつですね。これは神の住ま 合せて三柱の神がいらっしゃいますね。ですが、住吉や春日 照大神と万幡豊秋津姫命、天手力男命の、 壮大ですね。出雲大社の内部空間もそうですが、 タイプと、今先生おっしゃったように、例えば巖島神社は寝 もう模型みたいな小さな祠もありますよね。そういうような いというよりは、 川添 例えば、伊勢神宮の場合には、内宮の正殿の中に天 神そのものを象徴していると思うんです。 相殿の神二柱と、 内部空間は結構 神魂神社も

いは、

と無理だと思います。

神社建築と結び付けてそれをうまく説明するのは、私にはちょっ

天井に装飾がある。

ではいら先生おっしゃったように、シンボルとしてここに神様がいらっしゃるんだよというような、神棚に祭られてる小様がいらっしゃるんだよというような、神棚に祭られてる小神様の住まいと人間の住まいとは、ちょっと違うのではない神様の住まいと人間の住まいとは、ちょっと違うのではないかなということです。

なぜ建てたのか。
まいなら大社のような形が良いのに、倉庫風の建物を神宮がは言われます。神宮のほうは倉だと言われまして、神のお住は言われます。神宮のほうは倉だと言われまして、神のお住

ライフ・ストーリーができて、それで人間の形をした神様がだんだん発展してきて、神話ができるようになって、神様のいうアニミズムの神様だったら、人間の家というのは合わないうアニミズムの神様だったら、人間の家というのは合わないかとか、取り付くとかと考える。それがアニミズムの神様、そう神社の神様は蛇だったり。蛇の神様とか太陽の神様、そう神社の神様は蛇だったり。蛇の神様とか太陽の神様、そう神社の神様というのは、これは人格神ですね。だけども大かという神様というのは、これは人格神ですね。だけども大かという神様というのは、

す。そこで初めて家が出てくると思うのです。けれど、実際は人間が神様を人間の形としてつくったわけで生れてくる。キリスト教では神の形に人間をつくったという

んですが、私はやっぱり倉だと思うのです。伊勢神宮が果たして倉かね、ということでお聞きになってるいうのは倉よりも宮殿が先じゃないかとおっしゃるわけです。二、三日前もお伺いしたんですけど、太田さんは神社建築と太田博太郎さんが私の本読んで遊びに来いといって、つい太田博太郎さんが私の本読んで遊びに来いといって、つい

けです。 宮殿のスタイルを後に造り出したと、そういうふうに思うわ 天照大神という人格神が確立されてくると、やっぱり宮殿の ことなり」という感じで、食は宗教そのものになる。 いで、どこの宗教でもそうですけれども、「宗教とは食べる いるのは、半分以上どうも一つの信仰じゃないかと思うぐら 対象だった。今だって盛んにお米は輸入させないと頑張って すね。日本人にとって何といってもお米というのは、 段階で、倉そのものが神様になるわけです。つまり穀霊神 倉であった可能性は非常に強いと思うのです。ですけれども にとって天照大神は農業の神ですから。その場合にかっては スタイル、様式として倉の周りに回廊をして、というような 倉の場合は、そこに入るのは穀物ですから、アニミズ 日本人 信仰の ム 0

-21-

もともとアニミズムの神だった可能性がありますよね。

大河 そうですね、それは神社建築が発展してくる過程で、大河 そうですね、それは神社建築が発展してくる過程でいし、これはこれから考古学でもっと明かにされて来ると思いし、これはこれから考古学でもっと明かにされて来ると思いし、これはこれから考古学でもっと明かにされて来ると思いし、これはこれから考古学でもっと明かにされて来ると思いし、これはこれから考古学でもっと明かにされて来ると思いし、これはこれから考古学でもっと明かにされて来ると思いし、これはこれから考古学でもっと明かにされて来ると思いし、これはこれから考古学でもっと明かにされて来ると思いし、これはこれから考古学でもっと明かにされて来ると思いし、これはこれから考古学でもっと明かにされて来ると思いし、これはこれから考古学でもっと明かにされて来ると思いし、これはこれから考古学でもっと明かにされて来ると思いしています。

国建築が入ってきた時期であると考えられています。私もそ雲大社とか住吉というような神社建築の形が整ったのは、中日本史でもそうですけれども、現在のような伊勢神宮とか出て、神の家という形の社殿へ移行していく。また同時にこれて、神の家という形の社殿へ移行していく。また同時にこれとか伊勢とかあるいは住吉とかで、人格神信仰の展開と伴っそういういくつかの先行の形式がありまして、それが出雲

社なんですけれども、中に入ってみると小さなお社が入って

それから平安時代以降の例になりますと、

見掛けは大きな

来たと考えているのです。 ものを造りたいということがあって伊勢神宮の建築などが出れらに対する一つのリアクションとして、日本でもこういう

の系統ですと、大鳥神社がそうですね。 ございますが、ああいうものもそうでしょう。あるいは住吉近くに中山神社などのすごく大きなお社が津山周辺に何社かしゃってた吉備津もそうかもしれないし、あるいは吉備津のそれから、その分かれみたいなものは、例えばさっきおっ

22

は 様性があるんじゃないかと思いますね。 は川添さんもおっしゃったように、古くからいろんな変化を とか造りにきれいに分類できるように見えるけれども、 らこれは本当は御本殿じゃないんですね、明らかに覆屋であっ ります住吉神社がありますが、あれも外側から見える御本殿 実際に棟札に書いてあります。山口県にいま国宝になってお 建物は雨屋と書いてあって、中にある小さいのが御本殿と、 か覆屋なんです。実際千葉県なんかでも、御本殿に相当する して来たわけで、ある意味では充実して来たことは確かです。 川添 だから神社の歴史は確かにちょっと見ると流造だとか、何 中にある小さなのが御本殿に相当するものと思います。 正面の扉だけでなく、脇からも入口があるんです。だか そういう意味じゃ神社建築は、寺院なんかよりも多 実際

大河 それは建築史の本を見ると、概説では簡単に書いて大河 それは建築史の本を見ると、概説では簡単に書いてすね。 「一間がでも大体六〇%ぐらいはそうです。 ほかの県でも六、七〇かでも大体六〇%ぐらいはそうです。 ほかの県でも六、七〇かでも大体六〇%ぐらいはそうです。 ほかの県でも六、七〇かでも大体六〇%ぐらいはそうです。 ほかの県でも六、七〇かでも大体六〇%ぐらいはそうです。 ほかの県でも六、七〇かでも大体六〇%ぐらいはそうです。 しかし、調べてみると、概説では簡単に書いて大河 それは建築史の本を見ると、概説では簡単に書いて大河 それは建築史の本を見ると、概説では簡単に書いて大河 それは建築史の本を見ると、概説では簡単に書いて

すけれど。

絵巻を見るとそういうのも書いてあります。実際調べてみるついてる。これは古い春日造もそうなんですけれど、中世の子というのが、縁の突き当たりでなくて前の向拝のところに穂高町にございますけれど、そこでは普通は後ろにある脇障例えばご存じかと思いますけれども、穂高神社というのが

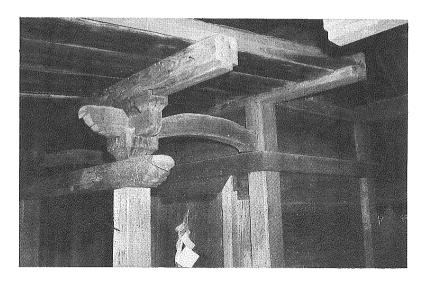
いるんですね。本来はこのほうが御本殿で、上は雨屋という

司会 教科書には流造というのは「寝殿造」からの展開だ

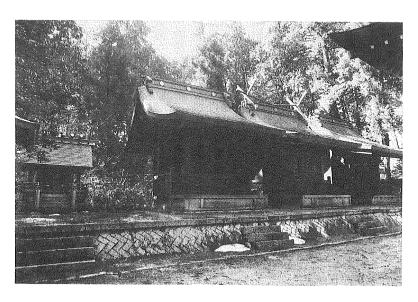
と千差万別ですね。

ければ流造だし、妻のほうに付ければ「春日造」だと思いま御供物を捧げなきゃなりません。そのため庇を平のほうに付すね。古墳時代はそうじゃなかった。古墳時代から歴史時代の日本人は神聖な建物にふさわしいというふうに考えたんでの日本人は神聖な建物にふさわしいというふうに考えたんでの日本人は神聖な建物にふさわしいというふうに考えたんでの日本人は神聖な建物にふされば流造だし、妻のほうに付ければ「春日造」だと思います。

というので覆屋のようなものを造るわけですから。流れ造りやという間はいいんですけれど、やっぱり雨に濡れては困るで儀式をしますね。だからそれが雨に濡れてもしょうがない非常に雨が多い。大体神社というのはほとんどが神社の前庭るんですが、これは明らかに後につけたものですね。日本は「川添」伊勢神宮の場合には、正殿の前に覆屋というのがあ



諏訪八幡宮本殿(長野県伊那郡泰阜村)



穂高神社本殿(長野県穂高町)

夏酘造というのは、もともと母屋だけがあってそれでの場合は屋根を前に延ばしてくればいいわけでしょう。

しゃった、共通性は確かにあると思いますね。 大河 そうでしょうね、大体寝殿造が発達する前の段階と 大河 そうでしょうね、大体寝殿造が発達する前の段階と 大河 そうでしょうね、大体寝殿造が発達する前の段階と

川添 薬師寺の場合、『今昔物語』に、母屋の中には一番 「別添 薬師寺の場合、『今昔物語』に、母屋の中には一番 う私は考えていますけど。

うど今日春日祭なんで、思い出しますね。あれは大社系統で司会 流造というと平入ですね。春日さんが妻入で、ちょ

妻入になるわけですか。

大河 妻入、平入という問題が神社で一つございますね。 大河 妻入、平入という問題が神社で一つございますね。 たり平入になったのかと、これは難しいですね。今のところになったのか。あるいは神社ではどうしてこれが妻入になったり平入になったのかと、これは難しいですね。今のところになったのか。あるいは神社ではどうしてこれが妻入になったり平入になったのかと、これは難しいですね。今のところたり平入になったのかと、これは難しいですね。今のところたり平入になったのかと、これは難しいですね。今のところたり平入になったのからないですね。それから信州ないまりますが、当時代の地域というのは平入になったのが、数は少ないけれどある地域となったのがでは、確実に妻人というものは見当たらないです。

けば、入口にするには都合がいいわけです。だからそこからえるようになりますけれども、妻側の屋根を斜めに出していですからね。そして平のほうは垂木を延ばしますと頭につかと思うのです。妻入の場合には何といったってみかけが立派妻入のほうがむしろ高級な建物としてそのほうが合っている大河(いや、そうではなくて、例えば高床住居の場合には、

司会をうすると平入のほうが古いんですか。

プが随分あります。るわけです。東南アジアの素朴な住居の中に、そういうタイでは、テラスのようなものを出していけば大変立派な建物にな

もとは両方の形式があって、ある時期に混じったのではない が家の土間になる妻人のほうが都合がいい。だけれども、そ が家の土間になる妻人のほうが都合がいい。だけれども、そ が家の土間になる妻人のほうが都合がいい。だけれども、そ が家の土間になる妻人のほうが都合がいい。だけれども、そ が家の土間になる妻人のほうが都合がいい。だけれども、そ ないわけですが、日本の民家の多くは平入なんです。そして ないわけですが、日本の民家の多くは平入なんです。そして ないわけですが、日本の民家の多くは平入なんです。そして ないわけですが、日本の民家の多くは平入なんです。そして ないわけですが、日本の民家の多くは平入なんです。そして ないわけですが、日本の民家の多くは平入なんです。 お祭りして、前から拝むというほうが基本になるわけです。 お祭りして、前から拝むというほうが基本になるわけです。 お祭りして、前から拝むというほうが基本になるわけです。

ですけど。
川添 しかし妻入と平入ということの前に、今先生おっしゃってすけど。

かと思うのです。

な一定方向だけで、横方向に対しては弱いわけです。には構造的に弱いわけです。垂木も水平垂木ですから、みん川添 民家の場合、ほとんど寄棟です。それは切妻の場合大河 民家の場合にはそうですね。

のは、私はまさにそうだろうと思うのです。
非常に神聖な建物だという観念がある時期に出てきたというと、日本でも圧倒的に寄棟だと思うのです。ですから切妻がと、日本でも圧倒的に寄棟だと思うのです。ですから切妻のというのはそこで風が吹いたり雨が降ったりして、切妻の妻というのはそこで風が吹いたり雨が降ったりして、切妻の妻は、日本でも圧倒的に寄棟だと思うのです。ですから切妻が、出てます。つまりがある場合には、切妻の屋根の下に必ず覆韓国に切妻の建物がある場合には、切妻の屋根の下に必ず覆韓国に切妻の建かがある場合には、切妻の屋根の下に必ず覆

でもありますが、数は少ないですね。
大河 切妻の民家というのは白川村とか、甲州とか、茅葺

それも近世以後じゃないかと思うのです。

川添

から、必ずしもそうは言えないですね。 大河 でもね、白川村なんかは恐らく近世になってできた 大河 でもね、白川村なんかは恐らく近世になってできた養蚕農家なんていうのは完全に近世、そうでもないですか。

「大和棟」ですね。
いてるんですよ。(笑)それであと切妻があるのは、大和のいてるんですよ。(笑)それであと切妻があるのは、大和のたのかわからない。わからない、わからないと三回ぐらい書のところで、何でこんなところに、こんな切妻の形が出てきのところで、何では、「日州の民家」

棟で変わったという例がありますからね。 大河 あれのほうが新しいでしょうね、きっと。もとは寄

例えば

うのですが、あれは拝殿との関係があるんでしょうか。 司会 神社は妻入より平入が、大体平入のお社が多いと思

話を書いていらっしゃる。出雲のところでしたか。
まいていらっしゃいますけど、妻の装飾が以前あったという要へというものもできたんだろうと思います。だから妻に神妻へというものもできたんだろうと思います。だから妻に神聖な何かを認めた時期があったわけで、川添さんがどっかで聖な何かを認めた時期があったわけで、川添さんがどっかで事な何かを認めた時期があったという書いていらっしゃる。出雲のところでしたか。

川添 伊勢神宮です。

大河 伊勢神宮でしたっけ。

てんです。そこを「鏡」と言います。 丁字形のが立つんです。そこのところに模様を彫り込んでいっの真ん中に束が立ちます。それからその両側にもう一つずつの真ん中に束が立ちます。それも内側の。要するに妻壁三角形 はのとのところにする飾りものを言うんですか。

がございます。それを……。ですが、これに鑿を入れて、それで墨など付けてするお祭り出来上がってから、ここのところにくっ付けるんだと思うの出来上がってから、ここのところにくっ付けるんだと思うの

それです。

それで今さんは、

土間というのは竪穴住宅以来のアニミズ

ういう妻というものの観念が出てきたんでしょうね。それもつ頃からかはわからないけれども、古墳時代のある時期にそけじゃないんですね、あったことは確かなんですね。それがいのところに円弧が二つ刻んであるんです。これは伊勢神宮だ坂の古墳から出た、いわゆる住居型の埴輪ですけれども。妻坂の古墳から出た、いわゆる住居型の埴輪ですけれども。妻

神棚と仏壇

非常に面白い問題ですね。

すが、 守とか、皇大神宮とか、八幡様とか、そういう御札を貼った 様とか、そういうのは大体土間に祀る。それから、 りして、 そうしたら先程申し上げましたアニミズムの神様、 さんが民家に祭られてるところの神様を全部調べたんです。 けれど、それはどういうことなんだろうとおっしゃった。今 てるのが、場所によっては神様の性質が違うような気がする か、荒神様は火の神様ですね。それから水の神様とか竈の神 んどないんです。仏壇も中央の板の間に祀られてる。 Ш 添 柳田さんは今和次郎さんに、民家の中には神様を祀 神棚を設けているのは板の間で、畳の部屋にはほと 先程の民家の場合に、 柳田さんのお話があったんで 荒神様と 土地の鎮

だけです。そういうことで今さんは、 そこにあって、それが中央になって。 会の流れだという。 来上がったそれの流れであって、畳というのは近世の武家社 伝承、それから板の間は寝殿造の、 ばみんな比較的に最近のことで、仏間があるのは真宗の門徒 神棚もほとんどない。最近はある場合もありますが、 そうしたら大体土間の神様祭ってるのは主婦なんです。 に対して板の間の神様を祭ってるのは家長なんです。 「延喜式」かなんかが出 それから畳の部屋には 土間祭祀は竪穴住宅の 調べれ 仏壇も それ

ムのものだと。

それを高取正男さんがまた追跡調査しまして、

11: ら柳田さんの思想で考えるようになった。ところが戦後近代 柳田さんと違う方向へ行ってたんだけれど、戦時中ぐらいか うのは生活を見ていく基本だということで、今さんも初めは ビリゼーションになるわけですから、近世までは、儀礼でもっ そちらのほうになってしまった。 まり進めな て文明というのはつくられていくわけです。だから儀礼とい の社会に適用していくのは「礼」ですね。それからヨーロッ たいなものがあって、中国ではそういう思想というのを現実 の場合にも「儀礼」です。儀礼はシビリティー、 この波に乗ったものだから、今さんはそれ以後その方向はあ それぞれの時代には、 かったですね。 社会を支配しているイデオロギーみ むしろ服装における儀礼だとか、 それがシ

厶

はっきりした意識的な分け方はしてなかった。

祭るというのが、 るとか。これらはもともとは先祖祭りだったと思う。 神様の軸は掛かっているんですけど、前にお燈明を上げてあ めるようになっているんです。それで安房なんかに行っても、 と仕切りをいれて神棚と仏壇とが設けてある。それから場合 ば秋田に行きますと、一間の床の間のようなところに、 仏壇かわからないようなのがたくさんあるわけですね。 思うのです。現在でも古い農村、山村へ行きますと、 幾つかの手掛かりはあると思う。私も柳田先生のこの理論を あるいは仏壇の前に「天照皇大神宮」の軸があって、 によっては奥に仏壇があると、前の欄間に神棚が置いてある。 を区別して考えるようになったのは、 つの導きとしたんですけれども、 大河 それ は非常に難しいし面白い問題なんですけれども、 神棚とか仏壇より前にあって、 まず神とか仏というもの 民家ではかなり後だと 神仏という ちょっ 神棚か 先祖を 例え

ても、 は 入ってますね。これはまた別の問題で、 家がかなりあるんです。対島なんかそうです。 お盆の時のを見てみますと、 の信仰があり、もう一つは、方々からもらってきた御札が これが一つあって、もう一つさっきおっしゃっ 先祖祭りの祭壇ですね。 先祖祭りをするとき、 例えば囲炉裏の間 先祖祭りというのは、 家の正面の真ん中でするという 私が一番興味あるの 対島では精霊 に仏壇 たアニミズ があっ ・わゆる

供養のためにやるわけです。に石を舞台みたいに敷いてありまして、盆踊りをそこで先祖棚を作って、前の縁に灯籠を吊って、立派なのになると前庭

だからこれは、さっきおっしゃった韓国のとも近いんです。だから日本の先祖祭りの古い形も、それに似たものじゃず。だから日本の人ですの人は立て膝で座って拝むわけで式に座って、その後ろで女の人は全部前庭で、韓国流に胡座祭としていて、あとの同族の人は全部前庭で、韓国流に胡座祭としていて、あとの同族の人は全部前庭で、韓国流に胡座祭としていて、あとの同族の人は立て膝で座って拝むわけで式に座って、その後ろで女の人は立て膝で座って拝むわけです。だから日本の先祖祭りの古い形も、それに似たものじゃず。だから日本の先祖祭りの古い形も、それに似たものじゃず。だからこれは、さっきおっしゃった韓国のとも近いんです。

司会 その真ん中のところは、普段、御霊屋みたいなもの

大事な床の間みたいのがありまして、そして後の時代になっすけれども。椎葉なんかに行きますと、真ん中の部屋に一番から拝むということは意識されてますね。いろいろございま井の竿縁は座敷のものとは直角になってまして、明らかに前の次の間的な役割りをしてるのもございます。あるいは座敷後になってくると仏壇があるのもございます。あるいは座敷

床の間があるんですね。ともとは真ん中の大きな部屋の正面中央に、神座に相当するてくると、上手の部屋に神棚とか仏壇もできますけれど、も

川添 僕ら仏壇にご位牌を祀りますけど、お坊さんが来る川添 僕ら仏壇にご位牌を祀るでしょう、だけど仏教ではそんなことあり得とこれ取ってくださいと言いますね。(笑)僕らみんな仏壇とこれ取ってくださいと言いますね。(笑)僕らみんな仏壇とこれ取ってくださいと言いますね。

式年造替の思想

司会 だいぶ時間がたちました。これまで神社の建築と、
司会 だいぶ時間がたちました。これまで神社の建築と、
のをお感じになるようなことはございませんでしょうか。
比すが、西洋の場合ですと、一般の住居と、神殿や教会など、
でしょうか、今度は西洋との関係でお話し願えたらと思いま
の意味だったと思いますが、お話しがございました。いかが
の意味だったと思いますが、お話しがございました。いかが
の意味だったと思いますが、お話しがございました。いかが
の意味だったと思いますが、お話しがございませんでしょうか。
日本人の住居との関係、あるいは住居の中での神のお祭りの
日本人の住居との関係、あるいは住居の中での神のお祭りの
日本人の住居との関係、あるいは住居の中での神のお祭りの
日本人の住居との関係、あるいは住居の中での神のお祭りの
日本人の住居との関係、あるいは住居の中での神のお祭りの
日本人の住居との関係、あるいは住居の中での神のお祭りの
日本人の住居との関係、あるいは住居の中での神のお祭りの
日本人の住居との関係、あるいは住居の中での神のお祭りの
日本人の住居との関係、あるいは住居の中での神のお祭りの

川添 さて、それは……。

違って、当然神がそこに常在してるわけじゃありませんから、カトリック、プロテスタントとも、全く住むということとはシャの神殿のような壮大なもの、あるいは教会の場合でも、司会 私どもはほんの僅かな知識しかありませんで、ギリ

大河 ちょっとその前に一つの話題提供をしますと、外国大河 ちょっとその前に一つの話題提供をしますと、外国大河 ちょっとその前に一つの話題提供をしますと、外国大河 ちょっとその前に一つの話題提供をしますと、外国大河 ちょっとその前に一つの話題提供をしますと、外国大河 ちょっとその前に一つの話題提供をしますと、外国大河 ちょっとその前に一つの話題提供をしますと、外国大河 ちょっとその前に一つの話題提供をしますと、外国

だなんて言うんだという反応を示したそうです。これが恐ら

わけではないんです。古代メキシコ、アズテクとかマヤとか

建て替えみたいなことは世界的な文明の中で、

Ш

添

の一番亀うところでする。く、日本とヨーロッパ、あるいは日本と中国の建築の考え方

司会 向こうでは建築というのは、永久なものという考えの一番違うところですね。

方ですね。

造ったものです。 造ったものです。 造ったものです。 造ったものです。 たび、本というものは、一つは堅いですし、屋根ももいできますと、こんなでっかい貴重な木の柱がある。だけどいできますと、こんなでっかい貴重な木の柱がある。だけどいる大きな問題の一つだと思います。中国の場合には大河、永久なものですね。ですから、これは日本文化に伏大河、永久なものですね。ですから、これは日本文化に伏大河、永久なものですね。ですから、これは日本文化に伏大河、永久なものですね。ですから、これは日本文化に伏大河、永久なものですね。ですから、これは日本文化に伏大河、永久なものですね。ですから、これは日本文化に伏大河、永久なものです。

西洋の建築と日本の住居としての建築というものを対比して、

けれども。ああいう教会建築みたいなものと神社、それから、住む必要のあるような建物の建て方はしないんだと思います

何か日本的な特色みたいなものを考えたりするのですが。

いうものは古びてもいいわけだし、建て替えてもいい。いうものは古びてもいいわけだし、建て替えてもいい。としても広かった。しかも造替をしなくなった神社でも、非としても広かった。しかも造替をしなくなった神社でも、非としても広かった。しかも造替をしますし、造替は制度しょうが、お諏訪さんなんかも造替をしますし、造替は制度しょうが、お諏訪さんなんかも造替をしますし、造替は制度しょうが、お諏訪さんなんかも造替をしますし、造替は制度しょうが、お諏訪さんなんかも造替をしますし、造替は制度しょうが、お諏訪さんなんかも

本の中が終わっちですね。それで新しい世界がまた始まる。それである。では、大きにつける。京都で大晦日に、八坂神社から火をもらっいたるまでつける。京都で大晦日に、八坂神社から火をもらっいたるまでつける。京都で大晦日に、八坂神社から火をもらっいたるまでつける。京都で大晦日に、八坂神社から火をもらっいたるまでつける。京都で大晦日に、八坂神社から火をもらっいたるまでつける。京都で大晦日に、八坂神社から火をもらっいたるまでつける。京都で大晦日に、八坂神社から火をもらっいたるまでつける。京都で大晦日に、八坂神社から火をもらっいたるまでつける。京都で大晦日に、八坂神社から火をもらっいたるまでつける。京都で大晦日に、八坂神社から火をもらっいたるまでつける。京都で出来で、金星暦というのと太陽ある。それで新しい世界がまた始まる。そが、あれも同じですね。それで新しい世界がまた始まる。そが、あれも同じですね。それで新しい世界がまた始まる。そが、あれも同じですね。それで新しい世界がまた始まる。それで出来ている。

んでする。 ねて造っていくのはあります。割合よく似たことをやってる前はまだ言えませんけれど、要するに前のお社のところに重前はまだ言えませんけれど、要するに前のお社のところに重 たピラミッドなんです。

そうすると六十二年の六倍として三百何十年かで出来上がっテナユカのピラミッドというのは六回か七回やってるんです。ていくんです、次々に。それだからどんどん大きくなって、

神宮と関係あるんじゃないかなという気がしてます。

地があるのじゃなくて、ピラミッドの上にピラミッドを重ねミッドは伊勢神宮みたいに簡単に取り壊せませんし、二つ敷

れで六十二年ごとにピラミッドを造り替える。ところがピラ

が遺言で日本最初に火葬した天皇でしょう。僕はこれと伊勢 いなものが、仏教とか道教の影響などがあって、根底から揺 ですけども、古墳のそういう死生観あるいは永遠の思想みた ですよね。それで僕は『「木の文明」の成立』にも書いたん の国は、まことにオドロオドロしい世界で少なくとも高天原 か。ところが『古事記』『日本書紀』のえがく根の国、黄泉 輝かしい永遠の世界があると信じていたのではないでしょう 仏教の輪廻も、その一つですね。ところが古墳の場合にはそ にしたのは、恐らく持統天皇だと思うのです。その持統天皇 るがされたと思うのです。それで伊勢神宮を今のような形式 の子孫がいくような所ではない。反逆した神の追放される所 に葬られている。おそらく、エジプトと同じように、 に藤の木古墳をみると、華麗な装飾を身に付け、財宝ととも んなことなかったわけです。あれは永遠の造形ですね。 回帰思想は古代の世界諸民族にかなりひろくみられる思想で、 Ш 添 要するに回帰していくという、そういう思想です。

るわけで、他方は神嘗祭。そして遷宮祭には新旧二つの御殿神宮の遷宮祭とは非常によく似てる。一方は新嘗祭の日にや皇が大嘗祭をした最初の天皇でしょう。それで大嘗祭と伊勢とが大嘗祭をした最初の天皇でしょう。それで大嘗祭と伊勢要するに自分が生命はなくなっても、肉体はなくなっても、要するに自分が生命はなくなっても、肉体はなくなっても、

びたつ。ですから大嘗祭というのは大新嘗祭ですし、遷宮祭 遷宮祭だなというふうに、 皇の精神を受け継がす、それが大嘗祭であるし、伊勢神宮の 思想があの時に確立されたんじゃないかと。天皇霊という天 とかいうのは永遠に受け継がれていくんだという、そういう うのです。つまり形あるものは滅びる。 というのは大神嘗祭です。これは神々の生まれ替わりだと思 私の勝手な解釈ですけども、そう しかし様式とか精神

いうふうに考えてます。

が並びたちますし、大嘗祭も、

由紀主基の二つの大嘗宮が並

けじゃ、ちょっと説明がつかないですね。だからそれは今おっ 価値はあると思います。 が好きだから新しいものを神聖と感ずるからやったというだ たから建て替えるとか、日本人は綺麗なものが、新鮮なもの られていた。しかしほかにも例がないわけではない。それが 度とか、そういうものは日本の神社特有のものであると信じ しゃったように、当時の文化の大きな問題として取り上げる いつ頃から出てきたのかというのも問題で、これは単に古び 大河 それは重要なことであって、今までは式年造替の制

うものは、祀られる神様の性格によって当然違ってくると思 神様をお祀りする施設としての神社とか教会とかい 根本的な違いはどこにあるのかという問題、川添 人間の住む住居の場合に、 西洋の建築と日本の

> うか、それともほかに何か……。 いわゆる気候、風土といったような条件が決定的なんでしょ も使えたはずなのにどうして石を使わなかったのか。 先生は「木の文明」ということをおっしゃるわけですが、石 それは

系統が全然別なんですよ、指揮系統が違うんです。 ど、お城を造る時に、 るんです。天守閣ほか建物は作事奉行がやる。だから技術の 川添(僕は技術の体系だと思います。これも書きましたけ 石垣とか堀とか、これは普請奉行がや

工さんがやってたわけです。 でも、橋とか河の堰ですね、そういうようなものは建築の大 の土木になってシビルエンジニアリングが関わるような分野 んです。土とか石を使うものが普請奉行の所属なんです。 は小普請もありましたけれども、今の土木とはちょっと違う 大河 江戸時代には普請奉行というのがありまして、これ

術体系と、石・土体系というような別があった。 Ш 大河 そうそう、石・土体系といったほうがい 「添 そうなんですよ、だから船なんかも同じで、 į١ ね 木工技

いうのは、これは農業土木なんですね。 曲り屋なんかに立派な石垣の上に農家、 いう概念がありません。ですから国際土木学会なんかでも、 川添 例えば、日本の建築で石垣を使ってるの しかし都市住宅ではないんです。そういう石・土技術と 豪農の家があります 欧米には農業土木と んは、 南 部

ね。

ですから。傾斜地そのもので畑になってしまう。米ではそんなもの必要がない。田圃を水平に造る必要ないんノーギョードボクと日本語をそのまま使ってやるんです。欧

すね。 銅のものに変えちゃったんですね。 ていますね。しかしそういうものは結局、建って五十年弱で か韓国から献上された灯籠や釣鐘の上屋も、青銅の鋳物で造っ た門も全部、石で造ってるんです。それからオランダからと なくて、大きな笠石の直径一丈六尺の石の宝塔と、扉の付い の宝塔を木造三重塔で建てた。それを寛永の時に石垣だけじゃ を造った時。これは元和の時に、家康さんのお墓の上、 う。もう一つは江戸時代の初めに神社建築として日光東照宮 で試みた時期が全くなかったかというと、それはあったです 川添 例えば、恐らく奈良時代にもそういう試みはあったと思 天和の地震でみんな壊れて、 だけど日本で、建築を石とかそういう永久的な材料 私がさっき言おうとしたのは、 現在のような小規模な青 ああいう城みたいな 奥社

川添 私がさっき言おうとしたのは、ああいう城みたいな川添 私がさっき言おうとしたのは、武士が結局、農民ののが壮大な石垣で出てくるというのは、武士が結局、農民ののが壮大な石垣で出てくるというのは、武士が結局、農民ののが壮大な石垣で出てくるというのは、武士が結局、農民ののが北大な石垣で出てくるというのは、武士が結局、農民ののが北大な石垣で出てくるというのは、ああいう城みたいな

というのはこれは「色っぽい」とかそういうのでしょう。というのはこれは「色っぽい」という言葉の持ってる語感神社建築の対談をやったことがあるんですが、その時『徒然神社建築の対談をやったことがあるんですが、その時『徒然神社建築の対談をやったことがあるんです。「ハイカラ」というのは現代語で言うと何という言葉が一番びったりですかと言ったら、「ハイカラ」だと言うんです。「ハイカラ」というのは現代語で言うと何という言葉が一番びったりですかと言ったら、「ハイカラ」だと言うんです。そこが面白いと思うのです。非常に古いものなんだけれども非常にモダンと思うのです。非常に古いものなんだけれども非常にモダンと思うのです。非常に古いものなんだけれども非常にモダンと思うのです。非常に古いものなんだけれども非常にモダンと思うのです。非常に古いものなんだけれども非常にモダンと思うのです。非常に古いものなんだけれども非常にモダンと思うのです。非常に古いものなんだけれども非常にものを考えている語感ができないが、

常にヨーロッパ人に強い印象を与えた。伊勢神宮初め桂離宮て来てからでも、こういう障子だとか何とかというのは、非本人の根底にあるようなものを神社に感じる。近代建築が出しさがありますよね。それでいて、一方で本当に神さびて古が白い衣に赤い袴をつけて、本当になんていうか、なまめかかもしれませんよ。だけどやっぱり神社に行くと、巫女さんれで神さびて、それが色っぽいという。現代の私たちの感覚

森に囲まれて、

自然があって、白木造なんかで造って、

型へ。(AV) のが神社には感じられる。お寺のほうはどうも何となく抹香 なんかも非常にあでやかですね。そういう何か、文化という

西洋建築と日本建築との比較

司会 明治以降西洋建築の影響を随分受けて、住居にもココ会 明治以降西洋建築の影響を随分受けて、住居にもコカってきているということをおっしゃったことがあります。中本の建築様式、例えば欄間とか、窓の取り方といったもので、随分大きな影響を受けて、アメリカの住宅建築様式が変で、随分大きな影響を受けて、アメリカの住宅建築様式が変で、随分大きな影響を受けて、アメリカの住宅建築様式が変で、随分大きな影響を受けて、空の取り方といったものおいた。

大河 それを日本人は割合に研究したがらないけれども、そとか、それを日本人は割合に研究したがらな影響を与えたことは有名ですけれども、日本建築も非美術が影響を与えたことは有名ですけれども、日本建築も非常に大きな影響を与えたことは有名ですけれども、日本建築も非常に大きな影響を与えたことは有名ですけれども、日本建築も非常に大きな影響を与えているんです。とくに十九世紀の末から、いわゆる絵画で言えば印象派の時代ですね、ゴッホとから、いわゆる絵画で言えば印象派の時代ですね、ゴッホとから、いわゆる絵画で言えば印象派の時代ですね、

れはかなり影響してます。

川添 日本の建築の発明品で一番影響してるというのは引出添 日本の建築の発明品で一番影響してるというのは引速い戸です。近代ビルの窓はもうヨーロッパでも、世界中が違い戸です。近代ビルの窓はもうヨーロッパでも、世界中が違い戸です。近代ビルの窓はもうヨーロッパでも、世界中が

司会 引違い戸というのは新しい勉強をさせていただきま 司会 引違い戸というのは新しい勉強をさせていただきま の関係で、欧米人は居住している部屋から直接庭に出ること ころにあると思っているのですが、住居の場合は居間と庭と ころにあると思っているのですが、住居の場合は居間と庭と はなかったのが、日本の建築の影響で部屋から直接庭に出ること はなかったのが、日本の建築の影響で部屋からべランダ、そして庭に出るみたいな建築様式が出てきたのじゃないか、そんな事を思っているのですが。

放性はない。 が大体森林地帯の建物がみんなそうなんです。だから世界的に大体森林地帯の建物がみんなそうなんです。だから世界的に、川添(真ん中に建物を立てて、周りに庭を造るというのは、

それから中近東地方のものは、

中庭を造りますね。

そして

張し、その代表として挙げたのがベイリージョン・スタイル はど日本は日本的な美学でもってやったということで、確かけど日本は日本的な美学でもってやったということで、確かけがものすごい勢いで広まったんですよ。それをベイリージョスがものすごい勢いで広まったんですよ。それをベイリージョスがものすごい勢いで広まったんですよ。それをベイリージョスがものすごい勢いで広まったんですよ。それをベイリージョン・スタイルと言っています。日本の住宅様式から影響を受ン・スタイルと言っています。日本の住宅様式から影響を受けた新しいアメリカのスタイルです。これは文明評論家のルイス・マンフォードが機能主義的な近代建築の機能性を批判して、それぞれの地域の風土に合ったものに造るべきだと主して、それぞれの地域の風土に合ったものに造るべきだと主して、それぞれの地域の風土に合ったものに造るべきだと主

ティオとか噴水とかがある。

だから建築と外部空間とを一

なんです。このベイリージョン・スタイルの代表的建築家の

てるのは、日本の住宅建築は日本の季候、風土に必ずしも適一人にウィクターという建築家がいるんですが、その人が言っ

ホノルルにより適合し、カリフォルニア

て来たのではないということになりますね。本建築というのは、必ずしも地理的、気候的条件だけで生れ

そう言われればそうですが、そうすると伝統的な日

に最もよく適合すると言ってるわけですよ。

(笑)

ないとね。(笑)

合性を持ってない。

をつくるような思想を持ってますけど、そういうものじゃな川添(文化というのは、日本人は何か自然そのものが文化

と思うのですけど。文化というのはどっか気張ったところが けですよ。だから清少納言というのはあっぱれ文化人だなあ なんて言ったけれども、それが非常にいいんだと言ってるわ すよ。(笑)明治時代に斎藤緑雨が「風流とは寒きものなり じって雪や霙が吹き込んできて「いとおかし」というわけで で、それも細庇、廊下みたいなところが一番いい。そこは夏 女官の住まいとして一番いいのは「細庇」だと。寝殿造の庇 問題なんです。清少納言が『枕草子』に書いてるんですけど、 にもかかわらず、開放的な住宅を選んだというのは、 よ。これは全然閉鎖的です。日本で一番上等な座敷は何かと もしれないけれど、日本には必ずしも適合しない。それじゃ 程言いました高床住宅なんていうのは、南方には適合するか は涼しい風が入ってくる。そこはいいんですよ。冬は風に混 いったら蔵座敷です。これは夏は涼しいし冬暖かなんです。 日本の自然環境が産んだ住宅は何かというと、竪穴住宅です W んです。文化というものは必ずしも自然と一致しな 文化の 先

てもほとんど竪穴住居で、室町時代ぐらいまでかなり残るわ代にいわゆる高床住居は入ってきませんし、古墳時代になっの影響がずうっと残りまして、例えば信州なんかでは弥生時ところが民家のほうはどうかというと、東日本には竪穴住居大河(それは確かに寝殿造というものが出来はしました。

ないんです。本の住居はいろんな構造、間取りなんです。統一したものはきたのか。最近の原始住居の発掘を見ると、平安時代まで日める日本式の障子を入れたような住居は、いつ頃からできてけです。そうすると現在はほとんど北海道まで見られるいわ

のではないわけです。 で普及していっちゃうわけです。必ずしも気候だけによるも 子が多くなる。 干し煉瓦よりもっと簡単なのは土の塊を積んでい は文化なんですね。それが結局、明治以降になって北海道ま たくさんある住宅が出てくる。後になってくるとますます障 を積んだのがある。 です。あるいは中に芯になる細い木を一本建てて、周りに土 です。大陸からずうっときて。ところが日本では無いでしょ けですから。こういうのは民家としては韓国の南まであるん 構造なんかも、例えば土を固めてやるのがありますね。 しかし中世ぐらいまでは、土を積んだというのがあるん もとは壁が多くて板戸だった。だから、これ 大体中世の、室町時代ぐらいから入口の けばいいわ 日

んな文化があるわけですから。でもヨーロッパでも、同じ地域にいろんな民族がいて、いろ本人の信仰です。国際的には通用しません。それはアメリカ

本当に自然が文化を生むなんていうのは、これは日

大河 それはそうです。旧満洲、今の東北地方へ行けば、

て、そうすると日本ではそのシュラインの文化、聖なる場所に住んでますね。それでちょっとそれと関係するんですけど、でも教会というものの段階で見れば違ってるけれども、じゃあヨーロッパの教会がどういうところを選んで建ったかということを調べていくと、そうするとそれ以前にあったその地域の聖なる場所なんです。それは要するにシュラインです。だからギリシャの場合でも建ってる建物はテンプルなんだけだからギリシャの場合でも建ってる建物はテンプルなんだけだからギリシャの場合でも建ってる建物はテンプルなんだけと、聖なる場所にあるからシュラインというわけ。日本の神ど、聖なる場所にあるからシュラインというわけ。日本の神ど、聖なる場所にあるからシュラインというわけ。日本の神ども普通はシュラインと訳すけれども、だけど建ってる建物はテンプルなんです。聖なる場所、土地がシュラインであったを連続と漢族と朝鮮族と同じ地域に住んでても、全く違った家満族と漢族と朝鮮族と同じ地域に住んでても、全く違った家

アンの聖なる場所であったとかという風に。そうすると神社場合には、アメリカにヨーロッパ人が入って来る前のインディばり場所が問題になるわけです。ヨーロッパでも教会が、キた公共建築を造っていくんだという風になって来ている。やった公共建築を造っていくんだという風になって来ている。やっというのではなくて、土地に合った都市を造って、土地に合っというのではなくて、土地に合った都市を造って、土地に合っというのではなる場所であったとかという風に。そうすると神社場合には、アメリカでも、今までのような場合には、アメリカでも、今までのような場合には、アメリカでも、今までのような場合には、アメリカでも、今までのような場合には、アメリカでも、

の文化というのが今までずうっときてるわけです。

わけです。いう聖なる場所というものを、ずうっと今まで伝えてきてるるとすると、これは聖なる場所の歴史なんです。日本はそう値が捉えられるけれど、一方本来のシュラインという面で見

建築というのは、

上の建物だけ見てると、形式の違って来た

建物だけというふうに見ると一方的になると思う。れ面白いですね。だから私はそういう神社建築というのは、道も付け替えたんです。以前から残るのは神社だけです。こ大きな再開発やってて、従来の集落を全部取っ払いまして、面白いのはこの間、隅田川の西側の汐入というところで、

川添 ヨーロッパの場合は一神教ですから、どうしてすね。それでヨーロッパの場合は一神教ですから、どうしていうのはだういうことか。ヨーロッパも、日本と同じようになみたいに。ただ、向こうのとかみんな言ってます。本当に森みたいに。ただ、向こうのとかみんな言ってます。本当に森みたいに。ただ、向こうのとかみんな言ってます。本当に森みたいに。ただ、向こうのとかみんな言ってます。本当に森みたいに。ただ、向こうのなから、春などには若葉の間から陽がサーッと差し込む。そういうのが上の方までのびたステンドグラスから差し込んでういうのが上の方までのびたステンドグラスから差し込んでくるというように、森そのものをかたどって落葉広葉樹でくるというように、森その世がというによっている。

がやはり基本的に違うなと思います。

建築でも水平に水平に展開していくという感覚ですね。これていたする。これに対して日本で高さを強調しようとしたのは、うとする。これに対して日本でありに山があるからだ、と言うんですけど、山があるからどはあがれない。眺望のためのものではないんですね。それは、はあがれない。眺望のためのものではないんですね。それは、はあがれない。眺望のためのものではないんですね。それは、はあがれない。眺望のためのものではないんですね。それは、間りに山があるからだ、と言うんですけど、山があるからどんですけれども、そういう高いものがないですね。それは、間建築で金閣、銀閣など楼閣が出てきて、あとは楼門ぐらいので、本当に景色を全体見ようというのは城の天守閣になってで、本当に景色を全体見ようというのは城の天守閣になってで、本当に景色を全体見ようというの場合あくまでも何かに行っても国見がでする。五重塔のようとする。これに対して日本で高さを強調しようとしたのは、

り東西の交流で、西洋に何か東洋的なものを求めるところがて、建築を任されるというふうになってきた。これもやっぱ見てびっくりしたんですが、そういう方が西洋で依頼を受け見てびっくりしたんですが、そういう方が西洋で依頼を受けれる。単年の建築家で何人かヨーロッパで活躍しておられます。私も本の建築家で何人かヨーロッパで活躍しておられます。私も

も天を希求しようと思って、もう何でもいいから高く伸びよ

意見、ご感想を聞かしていただければありがたいと思うので将来の建築がどうなるかというようなことを含めて、何かご方向でそんな傾向が生まれてきているんでしょうか。日本のそういう国とか文化とかの相違なしに、個性的なものというあるからなんでしょうか。それとも近代建築というものは、

すが。

大河 それは近代建築のいわゆるモダニズムといわれる建大河 それは近代建築のいわゆるモダニズムといわれる建築の歴史の中で、丹下先生とか、あるいは大谷幸夫さんとか、第四歴史の中で、丹下先生とか、あるいは大谷幸夫さんとか、第四歴史の中で、丹下先生とか、あるいは大谷幸夫さんとか、第の歴史の中で、丹下先生とか、あるいは大谷幸夫さんとか、第の歴史の中で、丹下先生とか、あるいは大谷幸夫さんとか、第の歴史の中で、丹下先生とか、あるいは大谷幸夫さんとか、第の歴史の中で、丹下先生とか、あるいは大谷幸夫さんとか、第四世の中で、丹下先生とか、あるいは大谷幸夫さんとか、第四世のです。私は近代建築のいわゆるモダニズムといわれる建

ども、大体どちらかというと「数奇屋造」とか、「書院造」めて、川添さんは非常に神社建築をやっていらっしゃるけれ近代建築家には、それから川添さんのような評論家の方も含れから更に見直していただきたい。どちらかというと日本のそういう面で私はやはり、日本の神社建築というものをこ

しいと思っているんです。

れども。だけれどもこれからは私自身は神社建築というものの中にも、明らかに薬師寺の塔的な感じのものもありますけもののほうがやはり受け継がれたんですね。丹下先生の作品とか、「寝殿造」とか、あるいは薬師寺の塔とか、そういう

にも、大きな目を向けて欲しい。

都市計画なんかでも、考え直さなければならないポイントだからの環境問題も含めて、どうしても日本人としてもう一度うものを非常に日本人は大事にしてきたわけで、これはこれそれはさっき申し上げたけれど、建築の形以前に場所とい

家の勤めでもありますけれども、 のをもう一度見直す価値がある。 洗練された木造建築という点でも、 といい、それからいろんな彫刻といい。だから非常に精巧な 木造建築の中であれだけ精巧なものはないんです。 伊勢神宮だけではなくて、流造なんか、日本の、いや世界の 本の木造建築としての良さというものを持っている。 住宅としての寝殿造とか書院造とかがあるけれども、 木造建築の中で、 と思います。 つやはり神社建築というものは、それらとは別の、非常に日 のですね。これはもう中国が原形ですから。それに対して、 それからもう一つは、 お寺はやはりどうしてもこれは永久的なも 先程からお話がありましたけれども、 それはまた私たちの建築史 実際の建築の方、 やはり神社建築というも 屋根の形 もう それは

統というものを考えていただきたいと思います。 をやっていらっしゃる方も、もう一度そういう神社建築の伝

とか前川さんが国際性を持ったのは、日本建築の持ってた良 そうはいかないので水差しの形にしている。水差しは梃の原 げられる弦をつけることができる。 じじゃない まげられない。だけどフッと考えたら、ヨーロッパだって同 国に行ってびっくり仰天したんですけど、茶器を売ってるん ために、日本ではものすごく分業が進むわけです。この間韓 ともできちゃってたわけですから。その体系が出来ていった の書院造の近世の終りには体系としてはプレハブみたいなこ らモジュラー・コーディネーションなんていうのは、さっき 築と同じなわけです。その中に先程言いましたように、 日本の場合には柱梁構造です。それでこれが原理的に近代建 さを現代化したからだと思うんです。というのはヨーロッパ 必ずしも大河さんに賛成しかねるんですが。やはり丹下さん いとして土瓶の弦も陶器なんです。だからお茶を入れる時に ですが、その茶碗と茶托がともに陶器でできてるのはまだい に適用できるような、引違い戸みたいのがあったり、それか の建築というのは基本的に組積構造なんです。石を積んでね。 川添 今の後のほうはいいんですけど、(笑)最初のほう ヨーロッパも薬罐は金属だから同じ材料で曲 ところが陶器の場合は、 現代

わけですね。

と共通性を持っていた、ということの上に立って出てきてる ぱり繊細な美しさなんです。現在でも僕はそうだろうと思う 現在日本の自動車を作ってる。建築も同じなんです。 うに、建物でさえ精密な機械みたいにつくりあげた。 をつくるだけで商売するなんていうのがありえないんです。 れた日本人の美意識、それと日本の建築が原理的に近代建築 のですけど。これは分業のいちじるしい発達のうえにつくら んなんかも、出て来た時に欧米人がびっくりしたのは、 日本では明治以前に進んでいた。それでしかも先程話したよ 日本のは弦も別だし茶托も別だ。 そういうものすごい分業が 丹下さ それ

だけど、 あって、 瓦というのは重いんですよ。そのために構造で非常に無理が ないでしょう。瓦を使わないで、非常に軽い材料を使ってる。 は なんです。その中に非常にいろんな多様性を持ってる。これ クトじゃないんです。ところが神社建築だけはオブジェクト てるように、日本の住宅建築はスペースが中心で、オブジェ ら考えるべきことがあると思う。それは先程からおっしゃっ たように自然との関係がありますけど、二つ、やはりこれか !日本の自然風土が生んだと言ってもいいけれど、瓦を使わ それで、その中で神社建築というのは、 一方でどうしても閉鎖的な感じになる。 お寺は陰気臭いとかいったような、 先程あなたおっしゃ 重厚さはあるん ところが神

理が働いて持ち上げるのに重くて大変ですね。というのが弦

っ

いて、それは神社だけじゃなく、天守閣なんかもそうですね。 日本の建築というのはオブジェクトの思想も、造型も持ってあるにガラス張りは非常に不安だという。日本人はガラスをするにガラス張りは非常に不安だという。日本人はガラスをするにガラス張りは非常に不安だという。日本人はガラスをするにガラス張りは非常に不安だという。日本人はガラスをするにガラス建築の不安感論争」なんていうのがあった。要するにガラス建築の不安感論争」なんていうのがあった。要けているんです。ところが神社建築の場合にはすべて実体なんで、で、ですから日本人ははオブジェクト、対象そのものですから。

でざいました。 (了) 参考にして、更に一段と立派な神社を引継ぎ、また維持して を考にして、更に一段と立派な神社を引継ぎ、また維持して のご意見を でだきまして、われわれ神社関係者もまた先生方のご意見を

ですからそういうことで神社建築をもう一度見直す必要があ

るんじゃないかな、という気がしますね。

